

クレマン・ミッテラン

Clément

Mitéran



1984 年生まれ。フランス在住

パリ大学哲学科卒業後、イタリア、スピリンベルゴのフリウリモザイク学校に入学。2008 年卒業。

フランスに帰国後、古い写真にヒントを得たモザイクを制作。

多くの個展を開催し、グループ展に参加。2014 年パリのグランパレで開催されたフランスアーティストサロンで金賞受賞。

2015 年よりモザイクの上に写真を印刷する技法の作品を制作し、注目を集めている。

フリウリモザイクスクール



Scuola Mosaicisti del Friuli



フリウリモザイク学校。1922年設立

近代ヨーロッパモザイクの牽引したジャンドメニコ・ファッキーナ氏が、目立った産業がなかった地元へ貢献しようと、地元へモザイク学校設立を企画。没後スピリンベルゴに設立された。

3年制のモザイク学校は世界でもここだけなので、世界中から生徒が集まってくる。

アーティストである前に職人であれという教育方針のもと、1年生はローマンモザイク、2年生はビザンティンモザイク、3年生は現代モザイクを学ぶ。

モザイク技術はもちろんのこと歴史から材料学に至るまで体系的に習得できる。材料・授業料は無料なので（登録料のみ）、作った作品は学校のものとなる。また学校が受けた仕事を生徒が行うのも特徴の一つ。

出品作：3年生の作品。下絵をビニールフィルムの下に置いて、その上にモルタルでモザイクを作っていく。大小のテッセラを組み合わせる手法や制作手順などは世界中のモザイク作家に影響を与えている。

マチルダ・トラセウスカ



Matylda Tracewska



1978年ワルシャワ生まれ

ワルシャワ美術アカデミー壁画コース助手

ワルシャワ美術アカデミー卒業。

ラヴェンナ美術アカデミーモザイク科卒業。

2010年卒業時に卒業制作賞を受賞し、ロシア、モスクワとサンクトペテルブルグで企画されたモザイク展に参加。世界各地でのモザイク展に参加。

2012年に帰国。高校の美術講師を務める。2017年ラヴェンナで若手アーティスト賞（BAEM賞）受賞。

出品作：この作品は「水族館」というシリーズの中の一点です。海の生き物という伝統的なテーマを現代的な視点でとらえ直すことを試しています。大理石の質感とデリケートな描画の組み合わせで、詩的な静謐な景色を描きたいと思っています。

オローデ・デオロ



Orode Deoro



1974 年イタリア・ターラント生まれ

イタリア・レッチェ在住

独学でモザイクを学んだ。南イタリア、ターラントとレッチェの間にある町グアニャーノのミュージアムハウスを飾る仕事とする間に、自分のタイルモザイクのスタイルを確立させた。その町には5年間住み、そのミュージアムハウスでは20か所の壁画を制作した。

2014年にはミラノのトリエンナーレデザインミュージアムで、モザイク壁画を展示。2015年には彫刻展でモザイクの立体を出品し金賞受賞。

受賞、雑誌のでの紹介多数。

レイチェル・ブレムナー

Rachel Bremner



オーストラリア生まれ タスマニア在住

プロのバイオリン奏者としてのキャリアを積んだ後、モザイク作家に転身。伝統的な技法や材料を用いながらも、想像力に富んだ現代的な作風が国際的に認知されるようになった。

ヨーロッパとアメリカでモザイクの勉強をし、展覧会に参加してきた。

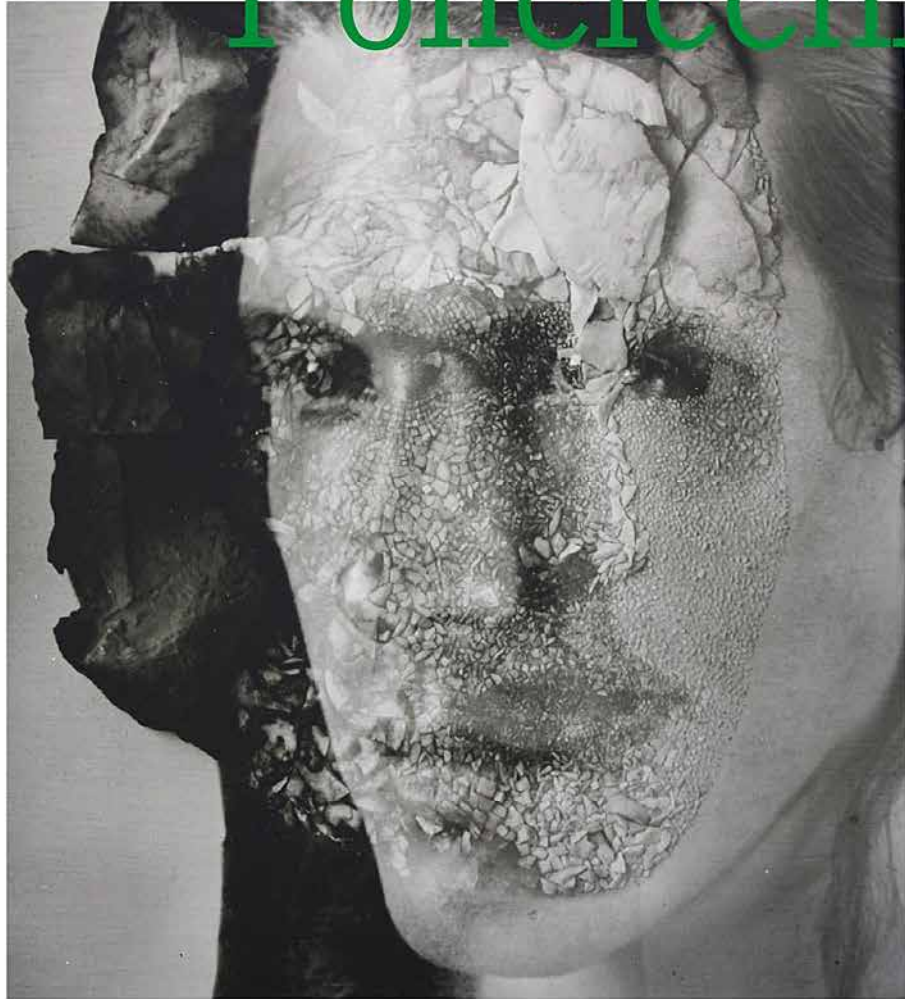
公共の援助を受けて、展覧会や壁画の仕事を受注し、最近はモザイクアクセサリーの製作にも力を注いでいる。

セルジオ・ポリチッキオ



Sergio

Policicchio



1985年アルゼンチン、ブエノスアイレス生まれ
ラヴェンナ在住

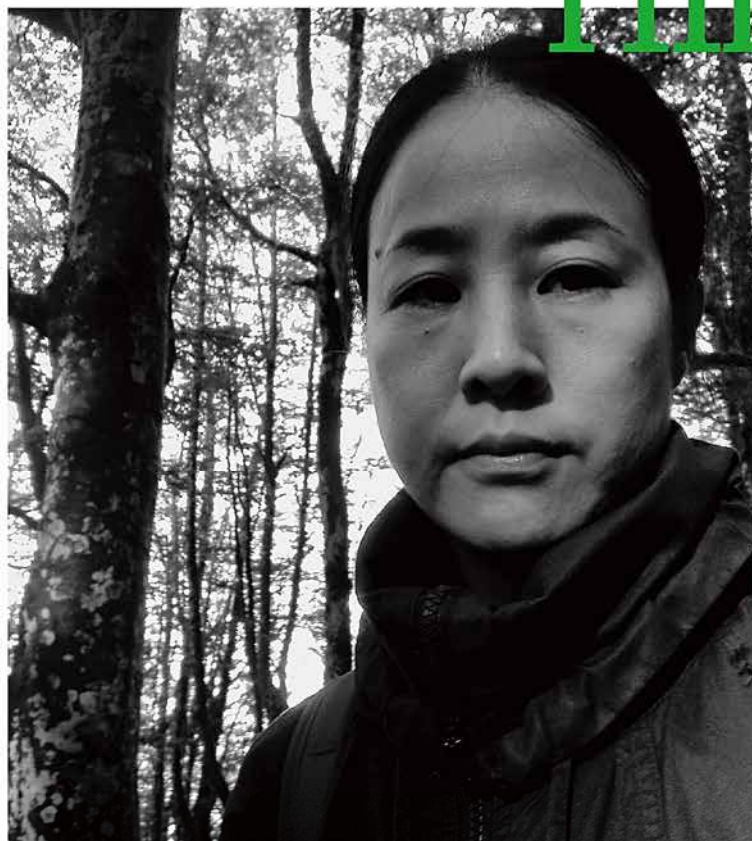
2004年ラヴェンナ美術アカデミーでモザイクを学び卒業。イタリア、アルゼンチン、モルドバを移動しながら仕事と制作に従事する。

イタリア、フランス、ロシア、ベルギー、日本など世界各地で展覧会に参加。ほか個展多数。美術雑誌での紹介も多く独特の作風に注目されている。

出品作：モルドバの冬は寒い。すべてが白くなる中、木々は身を守り春に備える。

平井能子

Takako Hirai



1975 年熊本市生まれ ラヴェンナ在住

1999 年広島市立大学芸術学部美術学科油絵専攻を卒業。

2003 年イタリアのラヴェンナでモザイク修行開始。

2005 年から同市在住。

2013 年 GAEM(young artists and mosaic) 受賞。

2017 年と 2019 年 MAR(ラヴェンナ市立美術館) で個展。

絵画、モザイク、インスタレーションなどの表現を介し、自分の自然な在り方を自問する作品で様々な展示に参加。

作品説明：切り株の穴から出てきて、そういえば今日だったっけ、と言う自分の姿です。世の中時間に合わせて生きることには無能さを実感し、自分時間のなかで生きていくしかない、という一種の諦めだが、決めたらほっとした、様子を表現したかった。人物像が抜けているのは、その時期自分を出し切った感があったので、白く抜いてみた。

タチアナ・ドゥボウスカヤ

Tatsiana Dubouskaya



1983年ベラルーシ生まれ。サンクトペテルブルグ在住

2004年ミンスク美術学校卒

2007年よりサンクトペテルブルグでイズマイル氏のモザイク工房で助手として働き、技術およびセンスの良さは多くのモザイク作家に認められている。

2013年より国際現代モザイク作家協会会員。

各国のモザイク展に出品。

ヴェルディアーノ・マルツイ



Verdiano

Marzi



1949年ラヴェンナ生まれ。パリ在住、サン・マリノ国籍

小学校の先生の勧めで、ラヴェンナモザイク学校 (Scuola di Mosaico a Ravenna) に入学。卒業後ラヴェンナの重要な工房であるレナート・シニョリーニの工房で働く。

1973年にフランス移住。以後パリを拠点に作家活動を続け、現代のモザイクを牽引する重要作家の一人。

ヴェネツィアビエンナーレに2度出品している。

出品作：タイトルのアイコンはキリスト教における聖像の意。ユーモラスな中に厳かな雰囲気醸し出す。大小のガラスピースの組み合わせにモザイクならではの面白みがある。

ウェンディ・エドワーズ



Wendy Edwards



オーストラリア・タスマニア在住

モザイクは独学。きっかけは自宅の浴室をタイルで飾るために資料を集めたこと。陶磁器を用いた立体のモザイクで知られている。使用材料は陶磁器、金属、ビーズ、ガラスなどである。

自然に囲まれた家に住み、自然から多くのインスピレーションをもらっている。公的資金援助を受けて、個展や壁画の仕事をしている。

出品作：彼女の作る動物はときに攻撃的な表情を示す。そこには人と動物の関わりについての様々な想いが込められている。